

1 はじめに

2021年は前の年に引き続き、コロナ感染症に振り回された一年でした。大阪や京都では緊急事態宣言が繰り返され、京大の活動制限レベルも1と2を行ったり来たり、オンライン授業、オンライン見学会、オンライン講演会や会議などが当たり前になりました。そんな中、附属天文台にとって大きなうれしい変化としては、5月に横山央明さんが東京大学から教授として附属天文台に着任したことです。柴田さんの退職後、空白となっていた数値シミュレーションの研究・教育を復活し、附属天文台の理論グループの育成、そして観測グループとの連携研究の発展にとって大変心強い限りです。ただ、オンラインづくしの昨今、天文台の面々と直に顔を合わせる機会が大変少ないのはもどかしいことです。

さて、コロナ感染症の波に最も右往左往したのは花山天文台でした。理学研究科では大学の活動制限レベルが1において、「一部の研究科重要行事を除いて、一般来客のあるイベントは原則として禁止する」としていますが、花山天文台の見学会は“一部の重要行事”として、制限つきながら特別に認めてもらっています。レベルが1に下がるたびに研究科執行部の承認を得て約1月先の見学会再開をアナウンスするのですが、次のコロナの波がやってきて再開するかしないうちに急遽中止、ということを何度か繰り返してきました。そんななか、花山宇宙文化財団が主催する花山天文台応援クラウドファンディング等によって集められた資金で、各建物の前にはモダンな案内板が設置されました。また、9月には財団の尽力により、東山ドライブウェイを走る京阪バスの將軍塚路線に最寄りのバス停「花山天文台・阿含」が新設され、一般来客を受け入れる準備が着々と進められています。毎年喜多郎さんのご厚意でおこなっている野外コンサートは、10月16日に花山天文台に設置したステージからのオンライン配信となりました。花山天文台野外コンサートとしては7回目にして初めて雨の中の公演となりましたが、シンガーのフランシーさん、バイオリニストの鹿嶋静さん、鼓奏者の祝丸さんにも出演いただき、醍醐寺の僧侶のみなさんによる声明との共演もおこなわれ、感動のひとときとなりました。桂福丸さん出演の宇宙落語会は、11月14日に「コロナといえば太陽にあり」と、ちょっと危ない題目を掲げ、メルパルク京都でおこなわれました。

飛騨天文台では日常の観測支援のために研究員や大学院生が定期的に京都から来るのがなくなり、少ない現地職員のみによる望遠鏡の運用が続いています。また、例年の観測実習や卒業研究の合宿、見学会はほとんどが中止になりました。しかし、SMART望遠鏡では温度制御装置や観測・データ処理ソフトを改修することで、より簡便かつ安定して自動観測をおこなうことが可能になり、またドームレス太陽望遠鏡でも、回折格子や望遠鏡内の鏡を観測PCから制御することを可能にし、新しい赤外線カメラを導入した偏光分光装置が立ち上がりました。太陽活動は徐々に上昇に転じており、日々の観測に対する期待は高まっています。

岡山天文台では、コロナ感染者が入構していたことが分かり、全ての観測を一時的に停止する、という事態から1年の幕が開けました。しかし、せいめい望遠鏡では、リモート観測も軌道に乗り始め、前年から試験観測を行っていた可視光三色同時撮像装置(TriCCS)が8月より本格稼働を開始したこともあって、これまでよりも数多くの観測プロポーザルが寄せられました。恒星フレアに伴う質量噴出現象の検出など、世界中から注目される成果を上げています。2021年はせいめい望遠鏡科学運用の3年目になり、望遠鏡のトラブルもずっと減って、宇宙物理学教室や国立天文台ハワイ観測所岡山分室との協力の下、全国共同利用と京大時間を含めて約240夜の観測がほぼ順調におこなわれました。

ただし、主鏡の接着が時々剥離したり、副鏡に予想外の表面劣化が見られ、これの再蒸着を7月に行うなど、初期の改修作業はまだ続いています。

2021年の附属天文台構成員の異動を以下に記します。岡山天文台の事務を担当された田中奏江さんが1月に退職され、その後任として山本紀子さんが1月に着任されました。飛騨天文台では、炊事や建物の管理をしてくれた岡田貞子さんが3月に定年退職され、その後任として松野智子さんが5月に着任しました。また、博士後期課程の黄于蔚君がオフィスアシスタントとして7月から飛騨天文台に常駐しています。そして冒頭で述べたように、横山央明さんが教授として5月から附属天文台メンバーに加わりました。現在附属天文台の構成員は、常勤教員6人、常勤技術職員2人、特定教員4人、研究員5人、非常勤職員12人(内事務職員3人)、その他連携・協力教員ほか10人と大学院生・研修員12人を合わせ、総勢51人となっています。

令和4年(2022年) 2月1日
京都大学大学院理学研究科
附属天文台
台長 一本潔